

真誠クラブ会報

3月議会特集

平成23年4月12日

発行者

出雲市議会真誠クラブ

3月議会特集

平成23年3月議会において真誠クラブ各議員が行った質問をまとめました

施政方針に対する会派代表質問

多々納 剛人



この度、真誠クラブを代表して会派代表質問を行いました。その主な内容は以下の通りであります。

問) 折り返しの2年が経過し、「開かれた市政の具体化」を柱に行政運営を行って来られたが、その基本姿勢は市民の皆さまに理解が得られているのか。

答) 市民の信頼、納得、協力を得る事が最も大切であるということから常に住民本位のサービスに心がけ、私も職員も開かれた市政運営に努めてきました。しかし、一方では厳しいご指摘、ご意見を頂いている。今後も気を引き締めて、何よりも市民のための市政であり、市役所である事を日々念頭におきながら、課題の解決に向けて取り組んでまいります。

その他、子育て支援事業と地域力向上について市長はどのように取り組まれるのか伺いました。

私はこの二つの質問については密接に関係する質問であると考えています。社会環境の変貌と共に子育て環境は著しく変化をしています。その中で地域力の低下が子育てにも大きく影響をしている事、またその背景には多様性から

住民自体の社会観が多様化し、地域力の低下につながっているのではないかとこの事でもあります。答弁としては、地域力向上策の一つとして副市長を長とした町内会加入促進プロジェクトチームを立ち上げ、アパート・マンション居住世帯の加入促進に重点を置いて検討をします。年度内(22年度)に一定の促進策を構築して23年度からは全庁的な取り組みを具体的に実施しますなどの答弁がありました。

また他に、東アジアの市場調査について、看護系専門学校の誘致について、UIターン就農支援について、観光施策の推進体制について、などそれぞれ質問をいたしました。この度すべてを記載することはできませんので、違う機会でご紹介したいと存じます。

これから後半の2年が始まりますが、多様化する住民ニーズに行政がすべて対応する事は極めて厳しい環境にあると言わざるを得ず、行政に対する信頼関係を構築するには、徹底した情報公開を基本に、市民の皆さんが行政施策の何処に満足し、何処に不満を感じておられるのかを指標化し、施策の優先順位に反映する方法が必要ではと感じています。

排水機施設の定期診断を毎年実施へ

飯塚 俊之



出雲市平坦地は国・県・市の行政当局により、河川改修や排水施設の整備など、確実に災害リスクを取り除く努力をしていただいております。とはいえ、依然豪雨災害による田畑への冠水による農作物への被害、家屋への浸水や生活道路の遮断など、まだまだ多くの影響があります。そのような中、河川改修とともに重要な役割を果たす排水機は、老朽化しているものも多く見受けられ、いざというときに、その機能を発揮できるのか心配されます。

実際平成21年度には、築35年を経過した島根大学医学部の西側にある排水機施設のポンプが正常に稼働せず、復旧に不測の時間を要したため、効果的なタイミングでの稼働ができず、下流部の塩冶赤川での農地や道水路の冠水被害を拡大させました。

出雲市の農業用排水機の維持管理は、市所有の13施設では、施設管理人に委嘱をして、各施設において、毎月2

回ポンプの試運転及び機械の点検・整備を実施しています。土地改良区所有の2施設については、月1回の定期点検を実施しています。

またすべての排水機は、島根県土地改良団体連合会(以下、県土連)により、施設の診断指導を4、5年ごとに、定期的に受けています。今後も同じように施設管理人による点検と県土連による定期診断をする方針です。

しかしながら、施設が担っている重要性や安全・安心な生活を送る上で、更に計画的な整備を行うべきだと考えます。

特に県土連の定期診断は、施設の規模により違いますが、1ヶ所約65,000円位で実施されています。随時補修を行っていくことも当然必要ですが、現在行われている県土連の定期診断から外れた施設は、市が単独で予算化し、どの施設でも毎年定期診断が行われるようにすべきです。

異常個所を早期に発見し、早期に対応していく体制作りが求められます。

北山健康温泉保養施設の指定管理者選定過程を検証 萬代輝正



～「身近な大切な施設が、不備な指定管理者選定をされたら！」～

今回の3月定例議会での一般質問で、「北山健康温泉保養施設」での指定管理者選定において、健康増進施設での位置付けを条例で定めておきながら、観光面での活用提案があった県外業者への決定がなされたり、選定要項の仕様書には書いて無かった食堂についても、非常に曖昧な点があるなど、一連の指定管理者選定過程と選定後の対応についての問題が明らかになりました。

出雲市においては、ランドデザインの中で「21世紀健康文化都市の創造」を柱に、「生涯にわたる健康づくりの推進」の中で「健康増進施設の活用」として、北山健康温泉を位置づけ、同様に条例でも「市民に保養・交流の場を提供し、市民の健康の増進を図る」ために設置すると書いてあります。

しかしながら、今回の選定では、その目的以外である

「観光面での収益活動」について、評価以外の対象と云いつつも、設置目的の実際の評価では、事実1点の差を付けてプラス評価をしていることが分かりました。

そして、併設されている食堂部分については、施設概要に掲載はあるものの、仕様書からは食堂部分については除かれております。

そのような仕様書の曖昧さ（判断がしにくい書面）があり、既存の指定管理者の提案では、「食堂部分については、管理外の施設」と判断し、県外の指定管理者の提案では「食堂部分については、営業活動の主要部分」との認識での提案だったことが分かった。

そして、業務に関する経費計算については、市側で都合良く除いたりして、同じ土俵にて評価をしたということで、両者に見解の違いがあり不満の声があがっているのである。解決されないこの事例についても追って行きながら、今後も全市に亘ってさまざまな身近な施設が、労働者や地域の「声」を無視した選定とならないように、会派としても改めて考えさせられる事案となりました。

食育から農林水産業の推進を



問) 出雲市の食育を通したまちづくり政策では、農林水産物の地産地消が盛り込まれているが、現在の状況と今後への考え方を伺う。

答) 出雲市では、食育のまちづくり推進計画が立てられ産業振興策として農林水産物の地産地消の推進、農業体験を通した交流機会の提供などの取り組みが行なわれています。地産地消の推進策として産直市場の整備を行い、施設内に、加工体験も行える施設も整備し、生産者と消費者との交流の場となっています。他の産直市場では、水産物の販売も行い販売拡大に努めているところもあります。県、市、JAいずもで構成する出雲圏域地産地消推進協議会では、消費者に向け地元野菜の収穫、調理体験教室を行い消費者の皆さんに情報提供を行い農水産物の消費拡大が行われています。また、学校給食食材では、米は、100%地元コシヒカリ、牛乳や乳製品では、80%以上、野菜類も40%は地元

産が利用され子供たちへ安全、安心な食材が供給されています。また、米粉パンの導入も考慮し地元産の食材利用推進を図って行きます。

水産業振興では、21世紀出雲水産業総合助成事業のメニューを拡充して、地産地消の魚食普及への取り組みに支援を行っていきます。JFしまねの協力のもとで、魚のさばき方や料理教室を開催し地元産の魚の美味しさをPRし、魚食の普及推進を行います。食育に対し、市民の意識や取り組みの実態把握のために、アンケートを実施し、データ分析を行い今後の食育施策に生かして行きたい。

問) 希望がかなう担い手支援とは

答) 新規就業者やUIターンを促すため、職業相談や住宅情報の提供、空き家の斡旋、定住や研修経費、機械や施設整備への助成など、生活基盤の確保から就業後まで様々な支援を展開し定住、定着が実現する事を望んでいます。農林水産業は、地域や国を支える重要な産業であり、担い手の支援や多様な施策を講じ一次産業の振興を図って行きます。

川上幸博

自治会への加入促進を



長岡市長は、平成23年度施政方針の中で、「コミュニティ活動の基盤となる町内会（自治会）については、その加入率が年々低下しており、地域によっては組織の維持ができなくなるとの懸念もあります。このため、

特に低下の著しい都市部を中心に、自治協会等と連携し、マンション・アパート等の町内会（自治会）加入促進に重点的に取り組んでまいります。」と述べています。

自治協会・連合町内（自治）会や、その基礎となる町内会（自治会）加入率は、近年少しずつ低下してきており、低い地区（コミセン単位）では、50%を割り込むところも出てきています。一方、これらの自治組織は、安定、円満な地域形成や、安心で安全なまちづくりに大変重要な役割を果たしています。その内容は実に多彩で、自治組織各々の活動はもとより、コミセン・消防・防災・学校後援・交

通安全・地区体協・社福などの運営も、自治組織が基礎となり、活動を支えています。

このように、公益性の高い活動を行っている自治組織ですが、その運営は、加入者によるボランティアで行われ、加入世帯は年数万円程度の資金を拠出しています。当然のことながら、未加入世帯には、このような負担はありません。私は、このような状態は正常ではないと考えますし、将来的には、ますます加入者が減少し、自治組織そのものが瓦解するのではないかと危惧しています。

市長の施政方針で、前述のような決意が示されたので、加入促進について、具体的目標、手法について質問をしました。しかし、目標については具体的に示されることはありませんでした。果たしてこれで実があがるのか疑問です。きちんと目標を示すことは、責任を負うことや決意を示すことでもあります。市の積極的な取り組みにより、成果が上がることを期待し、注視していきたいと思えます。

福代秀洋